のである。其の後バルクにあつた中繼市場がマザーリ・シェリーフ Mazâr-i-Shérîf とターシュ・クールガーン Tâsh-Kourghân とに移された結果、アフガニスタン領トルキスタンで此の街道に多少の變化が起つたのであるが、其處を除けば、今でも矢張りボカーラ Bokhâra からペシャワールに行く隊商は此の街道を通つて居る。

前記の舊い街道に就ては猶ほ一つ注意すべきことがある。即ち、此の道は Kâboul をば通つてゐなかつたと云ふことであるが、その結論として是非言はなくてはならぬことは、玄奘法師の時代にカーブールは重要な都會ではなく、カピシャ國の郡衙所在地とでも云ふ位のものに當り、それ以前にも恐らく同じ程度のものに過ぎなかつたものと思はれる。其の證據には Kapiça で鑄造されたに相違ないと思はれるユークラティデス Eukratidés の古錢の或るものにカーピシー城市の神の像が鑄出されて居る。印度希臘末世の諸王が君臨した筈の地も、カーブールで一般に信ずる所とは違ひ、矢張りカーピシーの都であつたに相違ない。又迦膩色迦王と其の後繼者の冬御所はペシャワールにあ